

## 見沼中学校区義務教育学校に関する説明会 会議録（須加小・保護者）

- 1 開催日時 令和2年10月25日（日）午後1時00分～午後3時00分
- 2 開催場所 須加公民館ホール
- 3 出席者 保護者23名、一般1名
- 4 教育委員会 鈴木教育長  
                   学校教育部 吉田部長、荻原参事、諸貫次長  
                   学校教育課 須永主幹  
                   教育総務課 上野主幹、久積主査、田沼

### 5 会議内容

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
鈴木教育長	2 あいさつ
諸貫次長	3 経過報告について説明
鈴木教育長	4 義務教育学校の設立について説明
出席者	5 質疑 <p>学校の再編成の話だが、根本的な原因があると思う。たしか行田市は存続しなくなる市と言われていると思うが、行田市全体で人口が減っている中、人を呼び、人口を増やさないといずれ同じ問題が出てくると思う。特に須加地区は人数が減っているが、市として行田の魅力を発信し、人口を増やす事についてどのように考えているのか。また、そういった取り組みがどのように進んでいるのか。</p>
鈴木教育長	<p>教育委員会として再編成計画を立てる時の前提として、大きな課題だった。教育委員会としては、学校で何が出来るかというレベルでしか考えられなかったが、地域の活力となるものを計画として持たないと難しいのではないかという所が課題だった。行田市の人口減少状況を見ると、将来的に中学校4校、小学校7校になると想定している。東西南北の4つのブロックで中学校区を考えた時に、北部地域以外は1つの中学校と1～2つの小学校が残って、400～500人が確保できる。規模だけで見ると、北部地域の学校は計画に入らなくなってしまう心配があった。学校の教育は数だけではない面もあると思う。そこで方針の4つの柱として、学校規模の適正化、小中の接続による課題の解決など小中一貫教育を進める事、地域に根差した学校を作る事、魅力ある学校を作</p>

出席者	<p>り街づくりにつなげていく事を考えた。その中でできるだけ魅力ある学校を作って、子供達にも希望をもって、地域や保護者にも協力いただき、北部地域では義務教育学校を作っていく方向とした。全部の義務教育学校ではないが、義務教育学校で移住が増えたという地域もあるし、特認校制度で増えている学校もある。学校という範囲内の話なので、まちづくりという視点では申し上げられなかったが、再編成計画には北部地域をどのように持続していくかという観点も含まれている。</p> <p>この学校ができるのは1年半後だが、地域から色々声があり、これからアンケートをやっていて、1年半後に開校できるのか疑問である。今の話を聞いている限りだと、やる事も決める事もたくさんあり、地域の方からも色々あって、反対している人もいる。そんな中で1年半後に開校させるのか。</p>
吉田部長	<p>保護者に意向調査をして、結果を踏まえて一度立ち止まるのか、このまま進めるのかを判断する。スケジュールどおりであれば、12月議会に学校設置管理条例として校名を提案する。校名だけでなく義務教育学校として今後進めてよいかも議員に判断してもらう事になる。そこで議決をもらえれば、予算をつけたりして、令和4年4月に開校する事になる。アンケートの結果、賛成が少なく、一度立ち止まる事になると、条例案を議会に提出する事ができなくなり、義務教育学校を進める上では令和4年4月は難しくなると思う。</p>
出席者	<p>地区の嘆願書などを受理した事に対して、市民に何か報告があるのか。私が働いている会社の中でもSDGsの言葉は良く聞くが、なかなか難しい。ガイドブックにみぬまグローバル科とあり、研究機関と連携とあるが、実際、何をしていくつもりで書いているのか。響きは良く、凄いと思うが、須加地区の中で出来るのか確認したい。</p>
吉田部長	<p>地区からの要望書については重く受け止めている。特に須加地区では色々な意見がある中で、義務教育学校がわからないという意見がたくさんあった。そのため、改めて説明する機会を設ける事になった。</p>
出席者	<p>反対したら通ってしまう事なのか。それとも、例えば議会で議案としてあがって判断されるのか。</p>
吉田部長	<p>要望書などを議会にかけるという事はない。ただ、関連する議案の説明の中で報告する事はある。</p>

<p>鈴木教育長</p>	<p>みぬまグローバル科は学習指導要領に新たに明記された内容となる。企業とは違って、小・中学生で学ぶ持続可能な人材を作る教科となる。一人ひとりの子供達が自分の良さや可能性を認識し、色々な人とお互いの価値を尊重しながら生きていく事、多様な人々と共に働き、学ぶ事を子供達に十分理解させた上で、様々な課題や社会の変化の中でも自分で考えて課題を解決できるような持続可能な社会の作り手を育てる事がみぬまグローバル科の狙いである。どのような事をするのかについては、小学生段階はローカルな課題として故郷の見沼を知り、誇りを育むような教科にしたい。1～4年生では、総合的な学習の時間や生活科や特別活動の中で、自然と仲良くなる活動、学校探検、地域の祭り体験、町探検をするなどして、北河原、荒木、須加の自然や歴史や文化などの良さを知り、誇りに思い、そこで地域の人と話す事で地域への感謝を肌で実感させていきたい。5～7年生については、環境、農業が教科の中で出てくるし、利根川と共にどう生きてきたのかなど防災や環境の面がある。農家の方にも協力してもらって、各学校で作っている青大豆を発信するような青大豆プロジェクトも考えている。さらにこれまでのローカルな積み重ねをした中で、グローバルな課題として環境、資源、人口、多様性や防災安全の観点から地元の課題や社会の課題に気付いて、自分で探求して、発信できるような力を養う時間にしたい。これまでの総合的な時間を軸に、他の教科と連携するカリキュラムを作って、みぬまグローバル科で集約してやっていきたい。8、9年生は行田の未来に繋ぐという事で、まちづくり、温暖化、多文化共生について、SNSの発信、プレゼン大会など色々な形で発信できる力にしたいと思っている。小・中学校で出来る事は限られるが、一つのゴールに向けて学習を誘発的につなげる事で、持続可能な開発の理解を深めて、みぬまグローバル科を進めていきたい。見沼中の校訓が「自分に問う」となっている。自分事と捉えて、自分でどう考えて行動できるかという部分の実践力を高めていきたい。先ほど研究機関という話があったが、教育関係でこのような取り組みをしているのは全国でも十数校しかない。手元の資料では県内では上尾の東中学校が文科省の研究校として2年間の指定を受けて、カリキュラムを作って、やっている。今の所、小中でやっている所はないと思う。小さくてもきめ細やかな教育の中でそういった力を付けていきたいと考えている。教える側の疑問については、研究校の指導者は大学やNPOなどに繋がっているので、そこと繋げながら新たな希望のある教科としてやっていきたい。</p>
<p>出席者</p>	<p>それは義務教育学校だからできるのではないと思う。他の小学校、中</p>

鈴木教育長	<p>学校でも出来ると思う。義務教育学校の特色ではない気がする。また、北部地区の学校がなくなってしまうという話だったが、計画では10年後には小学校617人、中学校362人の大きい学校にすると書いてあるのに、消滅する意味がわからない。</p> <p>より持続可能な社会の創り手を育むためには、理科や算数といった基礎教科を高学年の段階から専門的な先生に教えてもらって基礎知識がきちんとつく事で、より充実した形で出来ると思う。場合によっては年1回や学期1回の特別な講座として出来るかもしれないが、一つの教科として9年間やっていく事で今後に繋がる力が育めるものだと思う。学校がなくなってしまう事については、基準の数だけで言うと、見沼中学区については人数が見込めなくなる可能性が高いので、残す事ができない。それであれば10年後に北小、その2年後に南河原小の耐用年数が来るので、そこが北部地域に残せるチャンスだと思い、計画を立てた。人数が少なくても、国道125号より北側になんとしても学校を残したい。</p>
出席者	<p>それなら、令和4年にわざわざ義務教育学校を設立する必要はないと思う。</p>
諸貫次長	<p>北部地域に学校を残していくための手順を考えた時に、義務教育学校を土台とすることを考えた。南河原とだけでは1クラスしか見込めないなので、地理的に考えて北部地域に星河地区も位置付けている。そうする事によって、北部で600人程度になる。その土台とするためにこの地区で義務教育学校を設立して、発展させて、北部の義務教育学校にしていく計画になっている。それがなくなるという事は、北部の義務教育学校を作るための前提から変わってしまう事になる。北部地域については、中学校に対して小学校が複数ある状態でなく、一体型という事で計画をしている。仮に小学校、中学校を別々に残した場合に、次のステップの土台にするには厳しいと考えている。</p>
出席者	<p>厳しいではなくて、やってもらわないと困る。</p>
諸貫次長	<p>特色ある活動をして、外から呼び込む事で維持していく方策がとれないと、存続自体が厳しくなると考えている。</p>
出席者	<p>北小の運動会を見て思ったのが、競争心がないというか負けても仕方ないと感じた。人数が多い方が良かった。</p>

出席者	<p>義務教育学校には賛成だが、南河原や北小と一緒にするのが遠い先の話ではないと思う。今ここで校名や校歌や校章を変えても、10年で終わっちゃうのかと思ってしまう。そうではなく、見沼の義務教育学校に他から来るという考え方なのか。</p>
鈴木教育長	<p>耐用年数や今後の人数を確保するため、計画上は10年後としている。10年で廃校とするとは言えない段階である。今後の子供達の人数や教育環境の変化などを勘案していかないと10年でなくなるかはわからない。現実問題として耐用年数はあるので、審議会などで計画の見直しをしながら、どのような形が良いのかを考えていきたい。見沼中が残るのか、新たな所に作るのかは今の段階では言う事ができない。1から作り上げている見沼の義務教育学校の土台は残しながら、繋げていきたい。</p>
出席者	<p>他の地区から希望があれば入学できる事になったが、逆は駄目なのか。義務教育学校が魅力的だとは思えないので、子供を通わせたいと思わない。その場合、いじめとかの事情がなくても行きたい小学校に通わせる事はできないのか。荒木と須加では署名やアンケートが出ていて、反対が荒木では8割、須加では5割近くあって、意見は重く受け止めると言うが、なぜもう一度アンケートをとるのか。準備委員会では数では判断しないという話だったが、万一今回の説明で良いと思って、この後のアンケートで義務教育学校でもいいかなという人が多くなったら、賛成が多かったという認識で進めていくのか。</p>
諸貫次長	<p>通学区の制度では別の学校に通わせる事はない。義務教育学校で他地区から受け入れるのは特認校制度になる。その学校の特色を見てもらって、通わせたいと思った人は理由なく通える制度となる。北河原は市町村合併の関係で南河原中に行ったりする事はあるが、基本的には学区制をなくしてしまうのは考えていない。</p>
吉田部長	<p>荒木から出されたのは、義務教育学校に反対、荒木小校舎活用に賛成、過小規模校解消に賛成の3つの柱があった。教育委員会では義務教育学校という形で計画を進めているので、義務教育学校に賛成か反対かの部分だけ調査をしたい。保護者の意見を特に重く受け止めたいと考えているが、須加地区については保護者がどのくらい入っているかわからない部分がある。そのため、改めて保護者を対象に意向調査をしたいと思っている。</p>

出席者	<p>アンケートについて、進めていく上で、直せる部分もあると思う。ただ単に反対だけでは何もわからずに終わってしまうので、今後に繋げる意味でも理由の欄を設けられないか。疑問があった場合は改善点があると思うので、それを詰めた上でも反対であれば仕方ないと思う。理由も調査してもらおうと良いと思う。</p>
吉田部長	<p>今回の調査では、賛成反対のほか、回答した理由を自由記入で書けるようになっている。今後、計画を見直す場合には参考にする。</p>
出席者	<p>中学校が多忙な中で、みぬまグローバル科は可能なのか。部活も先生の負担になっている。文科省でも部活を学校教育から切り離す方向になっているが、部活動だけでも市全体で再編成をするなど検討してもらいたい。みぬまグローバル科も外国語活動もあるので、先生の質の向上もしてもらいたい。</p>
荻原参事	<p>教員は多忙で、小学校だけでなく、中学校は特に多忙である。超過時間も多くなっている。その中で削る事ができるものとやらないといけないものがある。教員の本分である授業は第一優先。次の学力を支える土台となる考える力や問題を解決する力をつけるのが、みぬまグローバル科になる。地域の問題を低学年で知って、多くの人たちと相談しながら解決していく。これからオンラインで様々な事が出来るようになる。同じような農村地区で色々な問題や課題を抱えている他の中学校や義務教育学校と繋いで、問題解決をどのようにやっているのかというのを総合的な学習の時間で討論していけば、おのずと自分たちはこの地域に何が出来るのだろうという事を考えていけると思う。放課後の時間は、部活動や補修をやらないといけないが、義務教育学校ではスクールバスがあるので、他の学校と部活の合同練習を定期的に行う事も可能である。教員の質の向上はとても大切なので、今年度や来年度の人事異動で小・中学校の免許を持ち、指導力の高い先生を配置できるように、進めていきたいと思う。須加小は全員の先生が児童理解をよくしている。どの先生に聞いても子供の特徴と対応方法を理解している。それが9年間を見ていると中学校の先生であっても、小学生の児童理解を深める事ができるので、その子の特性をよく知った上で、本人に応じた指導をやっていく事ができる。今も小学校から中学校に申し送りしているが、中学校に上がった時点で再スタートになってしまう。</p>
出席者	<p>先ほどの質問で確認だが、「義務教育学校には賛成だが、10年後に</p>

	<p>廃校になるのであれば、校名などは無駄になるのではないか」という質問に対して、教育長は「残るかもしれない」と言ったが、それは初めて聞いた。今までは10年後に北小と南河原小中と一緒にいる予定で、一緒にいる時は校名なども変わるルールだが、その時に残るといのはどうい事なのか。</p>
鈴木教育長	<p>計画上では10年で一度リセットする事になっている。校名などはルール通りになるかもしれない。ただ、10年でまったくなくなってしまうかについては、今後の子供達の数や環境などを勘案した上で、見直さなければいけないと思う。</p>
出席者	<p>簡単に言うと10年でなくなるという事。学校名が変わるといのは新しい学校になるという事。そこがわからないと、皆さん混乱する。転校という形で入るのであれば校名などは変わらないが、再編成となると校名は変わって新しい学校になる。建物をそのまま使うという話ではない。それを混同して、見沼地区に残るかもしれないというミスリードはやめてもらいたい。今の計画だと10年間しかやらないとなっているのではないか。これからの人数でどう変わるか分かりませんという希望とか理想で話すのではなく、わかった事だけを皆さんに伝えて、しっかりと判断してもらおう事が大切だと思う。</p>
鈴木教育長	<p>残したいという思いが強かったので、今のような答え方になってしまったのは申し訳ない。正確にはQ20に書いてあるとおりである。</p>
出席者	<p>今回の義務教育学校について、子供に対して学校側からどのように説明しているのか。3校で交流してから中学校に入ったので、凄く良い体験だったという認識だが、子供達はなぜ交流しているのかを理解しているのか。本人に聞くと楽しかったという感想だし、他校の児童の事を覚えているので良いかなと思うが、今の小学生の子供達は再編成に対してどのように思っているのかについて、アンケートや先生から確認などをしているか。</p>
諸貫次長	<p>昨年度から交流事業をしているが、子供と保護者にアンケートをとった。手元にないので、その中に義務教育学校の説明をしてあったかは定かではない。一緒にいるという趣旨は説明してあると思う。</p>
出席者	<p>子供に説明会に行くけど何か質問はあるかを聞いたら、「担任は誰かな」と聞かれた。そのレベルなので、「2年後に小さな学年の子達と一</p>

	<p>緒に見沼中に行くんだよ」と言っても、本人は「そうなんだ」という感じだし、「あの子達はバスなのに、僕達は自転車なの」とかどうでもいい事しか気にしないと思うが、子供達の受け止め方はどうなのか。中学校の先生が小学生を見るというのは凄く大変だと思うし、中学校の先生が忙しいのも保護者は理解しているので、一緒になった時に先生にもメリットないと、せっかく進めるのであれば良い方向に進んだ方が良いと思う。</p>
<p>諸貫次長</p>	<p>子供達がどのような捉え方をしているかについては、学校の先生にお願いするなどして把握したい。先生については、見沼中を含めた各校の先生に集まってもらって、施設計画に関する意見をもらうなどのやり取りはしている。確かに、移行する時には先生が一番苦勞するので、引き続き先生の意見は聞いていきたい。</p>
<p>荻原参事</p>	<p>低学年は新しい学校になったとしても不安を抱えて行くと思う。現在各小学校で働いている先生の中から、複数人が一緒に新しい学校に行くようにして、知っている先生がいる状況は作っていききたい。中学校の教員が小学生を見る事で、教員として成長するのを感じている。子供達との接する機会が増えれば、当然中学生に対する接し方も変わってくる。</p>
<p>出席者</p>	<p>見切り発車で進んでいる所があると思うが、いつ頃決断するか。</p>
<p>吉田部長</p>	<p>教育委員会としては、計画どおり進めていくという思いで、これまで準備をしていた。荒木と須加から署名やアンケート結果が示されたので改めて保護者の意向を確認して、その結果でこのまま進めるか、止まるのかを決める。仮に止まった場合は、保護者の意見などを参考に今後の方針を考えていく。はっきりといつとは言えないが、そうなった場合は12月議会へ議案の提出は難しいと考えている。</p>
<p>出席者</p>	<p>これからアンケートを取り、集計していく中で、令和4年度の開校までに、校舎内の改修は間に合うのか。</p>
<p>諸貫次長</p>	<p>実際かなり忙しいところまで来ている。来年度工事を進めるために、細かい設計をしなければいけないが、それもまだ出来ていない。新しく作るわけではなく、中身の改修なので期間はかからないと思うが、中学生が在籍している中でやるので忙しい。やるのであれば終わらせなければいけないと思っている。</p>



出席者	それは、今の中学生に負担はあるか。
諸貫次長	音の出る工事は生徒がいる時にはやらない様にしたいが、全くないとは言えない。中学生がいる事が前提の工事として、なるべく支障がないようにしたい。場合によっては、一時フロアを移ってもらって集中的に作業するなど調整が必要になってくる。
出席者	義務教育学校の設立と複式学級の解消は別の話なので、義務教育学校の賛成反対に関係なく複式学級の解消を行うという事で良いか。
吉田部長	この義務教育学校の計画は、複式学級の解消が一番の目的なので、どのような形にしても、令和4年には解消を目指している。
出席者	義務教育学校を作らないと、複式学級の解消はできないか。
吉田部長	再編成計画は複式学級の解消が一番の目的で、手段の一つとして見沼中学校区では義務教育学校開校を採ったものとなる。
出席者	義務教育学校の反対が多ければ、複式学級の解消はなくなるのか。
吉田部長	違う形で複式学級の解消を進めていかないといけない。今の段階でどのような形とするかは今の段階では示せない。
出席者	午前の北河原の説明では、必ず複式学級の解消をすると話していたが、話が変わってきているように思う。令和4年4月までの複式学級の解消は確かか。
吉田部長	令和4年4月には解消していきたいと考えている。
出席者	県内に義務教育学校が1校あると書いてある。義務教育学校が開校するとなると県内2校になるが、県内の既存の小・中学校と義務教育学校2校は学力や体力の平均的なものを出す時に分かれて出てくるのか。そうではなく、一緒になるのか。
鈴木教育長	義務教育学校であっても、小学校と中学校の学習指導要領に沿って勉強していくので、学力などについては、義務教育学校の特別枠でなく、その学年に応じた所に入って、統計的に出てくる。

出席者	勉強する内容が同じで、教科書も共通のものを使うのであれば、同じ事をやると思うし、進め方も同じだと思うが、既存の小・中学校と義務教育学校で差別化される事はあるのか。
荻原参事	前期課程が小学校になるので、普通の小学校でやっている事は前期課程で同じように行う。県や国の学習状況調査も同じ所になる。義務教育学校だからといって他の学校と差別されるという訳ではない。
出席者	見沼中学校区義務教育学校で全て同じように組んでもらえて、同じように参加する事ができる事でいいか。
荻原参事	県の通知でも、小学校、中学校、義務教育学校は並列で出てきている。全く同じ文書が出てきているので、特に問題なくできる。
出席者	今の保護者の意見を聞いていると、令和4年度に義務教育学校を作る理由がない気がする。複式学級は令和4年度に解消する、10年後には義務教育学校がなくなるという話だが、1年半後にわざわざ新しい学校を作る必要はない気がする。それなら10年後に向けて、新しい所に1から学校を作る方がより効果的だと思う。10年間準備期間が取れるし、1年半後に迫っていて緊急に準備を進めるのであれば、10年後に新しい所に校舎を建て直す方が、教育効果や準備が進むのではないかと思う。複式学級の解消が一番の目的という事だが、先ほど令和4年には解消するという話があったので、メリットがない話ではないか。
鈴木教育長	その事も考えられる。教育委員会としては、より良い環境の中で小学校3校と中学校1校で義務教育学校を作っていきたいと考えている。
出席者	少人数の方がより先生が目が届くという事を考えると、須加地区にとって人数が増えるという事の全てがプラスでない気がする。それまで10人で一人だった先生が、30人で一人の先生になった時に、絶対に目が届かない。これは何もメリットのない事だと思う。
鈴木教育長	子供達の実態把握や子供達に寄りそう時間を単純にみると、人数が多くなると努力はしていても行き届かない部分はある。単元や教科を通して、その子の力を伸ばしていく事を計画的にやっていく。10人であれば目が行き届くと思うが、10人だけでは育たない力もあると思う。集団でなければ社会性や人間関係作りは中々育たない。それを考えた時に北河原小や須加小の状態では厳しいと思うので、なんとしても複式学級

出席者	<p>の解消には望みたいと思う。</p> <p>それは須加小でも出来る事だと思う。義務教育学校を作る理由にはな らないと思う。地域の行事に参加するというのは、今の小学生はやっ ている事だと思う。そういう当たり前な事を言われても、何もメリットを 感じない。作る事がありきで、話が進んでいる気がする。昔の話をする と、須加と荒木、北河原と南河原が合併するという話が立ち消えになっ た。でも合併しないといけないから間をとって見沼中に3校が行ったら いいのではないかという風に私には見える。投げやりな課程が見える が、それはしないのか。</p>
鈴木教育長	<p>それはない。前の南河原小と北河原小が立ち消えになった時の計画が とん挫してしまったのは、該当の地域だけの統廃合だったのが大きな反 省点だった。市全体としての再編成計画をきちんと考えて、基本方針と 基準を整えた上でやるべきだという事と考えて、通学区域審議会で話し 合って、人数や地域の環境を踏まえて考えた。</p>
出席者	<p>幼稚園が1クラス20人くらいで、小学校になったらクラス5人くら いになってしまう事を考えた時に、人数が減って世界が狭まってしま う。学年が上がったり進級する時には子供の世界が広がっていく方が良 いと考えている。今回の話を聞いた時に良い事だと思って、地区の回覧 とかを見ていたが、今まで須加と荒木、南河原と北河原が決まらなかつ たのに、はたして本当に実現するのかというのは大きな疑問点だった。 今日の話聞いて今まで解消できなかった問題が1年半経っても解消 できてないという印象をもった。今まで説明会に出られなかったので初 めて聞いた話もあったが、今の小学校・中学校の保護者が疑問に思う事 がたくさんあるという事は、1年半後に解消されるものではないと思 う。10年後に北ブロックを全部再編成するのであれば、そこを一つの 始点に考えていった方が良くと思う。今の子供達は人数が少ないので、 もっと大きな社会の中で学ばせたいと思うが、10年で母校がなくなっ てしまう事を考えると、その学校を出て誇れるものがなくなってしまう と思う。卒業した後に自分の学校がなくなったと子供に言わせるのは凄 く悲しいと思う。学校教育は長く続いていくものだし、培ってきた伝統 は学校教育の場ではとても大事にすると思うが、その大事なものを10 年で壊しますっていうのは、いかがなものかと思った。もっと長い目で 見てもらえないのかなと思う。</p>
司会	6 閉会

